

談話室

RIST (POSCO 総合研究所) 訪問記

手 墳 誠*

1989年の10月末、韓国 Pohang (浦項) 市にある POSCO の総合研究所である RIST (Research Institute of Industrial Science and Technology) を訪問する機会を得た。

RIST については既に多くの読者諸兄が訪問しており情報には事欠かないものと思われるが、今回の訪問では RIST を中心としつつも POSCO の生活環境整備についての情報をも数多く得た。また訪問に先立ち種々の韓国情報を調査したが、これを現地で得た生の情報と対比させることによって、当今韓国事情がいくばくかでも浮き彫りになるものと思われる。以下に RIST の概要と当今の韓国事情について紹介したい。

1. RIST の概要

1977年に発足した、POSCO 技術研究所を母体とし、1987年3月開設された総合科学技術研究所。

所員約700名、うち研究者は約400名。鉄鋼研究部門、新素材研究部門、理工学研究部門、経営・経済研究部門からなる。Pohang (浦項) 市西部の丘陵にある Hyoja (孝子) 地区に、Pohang 工科大学 (以下 POSTECH と略記) と隣接して建設されている。4棟からなる建物は地上3階地下1階であり、それぞれの間をアトリウム (総ガラス張りの吹き抜け空間。内部には種々の樹木が植えられている。) でつないでいる。

2. 鉄づくり、街づくり、人づくり

RIST および POSTECH の位置する Hyoja 地区は、POSCO 社員のための先進的居住区域となっている。約400万 m^2 ほどの丘陵地に、RIST、POSTECH の他に従業員の住宅、クラブ・ハウス、迎賓館、米国式のショッピング・モール、音楽堂、レストラン、大学学生のための寮、普通高校、工業高校、中学校、小学校、幼稚園、大学教官 (客員教授も含む) のためのアパートメント・ハウス、社員の能力開発のための研修所、体育館、テニス・コート (最近東京にできた有明コロシアムを更に立派にしたようなもの) 等が作られている。その一つ一つはいずれも大理石等をふんだんに使い、超デラックスなものであった。居住区域のそここは、みごとな植栽で飾られており快適な住環境を作り出している。

米国式のショッピング・モールは韓国国内では第一号とのことで、内部にはスーパー・マーケット、各種専門店、美容院、床屋、ボーリング場、病院、レストラン、サウナ (Pohang 市近郊はボーリングすると温泉が湧くとか)

* 新日本製鉄(株)研究企画部 研究企画推進室長

などの施設がある。

POSCO の従業員約15000人のうち妻帯者は約10000人で持ち家率は約80%、1993年度までに持ち家率100%達成を目標に従業員用住宅を建設中。従業員用住宅は社宅では無く、会社が用意した建物を従業員が購入するシステム。購入資金の調達方法は1/3が本人資金、1/3が銀行からの融資、残りの1/3を会社が融資するのだが、これが20年間無利子貸付という好条件。

従業員子弟のための教育施設も立派なもので、前述のように幼稚園から工科大学までの一貫した教育施設およびシステムが同地区に整っており、近年その成果が顕著に現れている模様である。

幼稚園は従業員子弟で希望すれば全員入園可能であり、パソコンを使用したコンピューター教育も実施されており韓国の幼稚園のモデルになっているとのこと。

小学校もパソコン教育は無論のこと、低学年から語学教育 (英語) を実施。校内には立派な理科実験室、小規模ではあるが科学展示室、プラネタリウム等の施設があり小さな時から自然科学に対する興味を育む姿勢が窺われた。

工業高校は卒業後5年間 POSCO で働くことが義務付けられているが、その後の転職は自由。ただし、転職者は極めて少ないとのこと。また製鉄業への従事は軍属に準ずるとされ POSCO 在職中兵役は免除される。

普通高校の学力レベルも極めて高いようで、約30%がソウル大学に進学するとのこと。

なお、当然のことながら授業料はすべて無料。

これらの教育施設を完備した狙いは、独自の一貫した教育システムにより優秀な技術者 (鉄鋼技術者も含め) の育成・確保、従業員子弟の教育の優位性を保証することにより、国内外の優秀な人材 (研究者、技術者) の確保を図ることにあるようだ。

以上述べたように、POSCO は鉄づくりによる利潤の一部で快適な住環境の街づくりを行い、更に各種の教育施設を充実させることによって、次代を担う人づくりを実行しているのであろう。

これらの子供たちが成長し、産業の第一線で活躍する時代の韓国は素晴らしい国、いや凄い国になってゆくのであろう。

3. 当今韓国事情

極めて短時日の滞在であったので、韓国の極く極く一部を垣間見ただけではあるが、筆者の感じたままを簡単に記してみたい。

全般的には、月並みな言い方かもしれないがやはり韓国は『近くて遠い国』といわざるを得ない。そのくらい我々の身近にありながら、その存在の認識、情報が少ないということだろうか。

世に、韓日『望遠鏡のぞき論』というのがあるとか。無論、接眼レンズを使って日本を身近に拡大して見て

いるのが韓国, 反対に大口径レンズ側から小さく, 遠くに韓国を見ているのが日本というわけである. 現実には産業構造上の密接な結びつき, 極東における政治的安定など, 今日では全く不可分の関係になっているはずなのに…….

ここで韓国の国勢について, 我が国のそれと比較してみたい. 国土面積は日本の約 1/4, 人口は約 1/3, GNP は日本の 6.5% (1985), 製造業比率 (GNP に対する製造業生産高の比率), 重化学工業比率 (製造業生産高に対する重化学工業生産高の比率) は, ほぼ日本と同レベルである. 一方, 科学研究比率 (GNP に対する科学研究費用の比率) は日本の約 1/2 であり, 科学技術を中心とした技術立国を目指す姿勢が窺われる.

日本の科学研究比率は西独と並び世界のトップクラスとなっているが, 基礎研究比率, 政府の負担比率等では先進工業国に大きく遅れをとっている. いまや世界の GNP の一割を占めるに至った経済大国日本は, 隣国の韓国の実情に照らせば更なる努力が要求されるのではなからうか.

我々が RIST を訪問した翌日 (11 月 1 日) 世界のノーベル賞受賞者 12 名を招いた『21 世紀ビジョン・フォーラム』が POSTECH で開催される予定であった. 翌々日には招待者を RIST の各研究室に案内し, RIST 研究員による研究発表会を企画しているとのことであった. 若手研究者, 学生等に与える効果には計り知れぬものがあり, 今秋の国際鉄鋼技術学会の開催とともに RIST を世界に喧伝できる大きな機会であり, このような企画

を実行できる RIST/POSECH/POSCO の実力には驚嘆させられた.

いずれにせよ, 今後いっそう交流のパイプを太くして『良くお互いを知ること, そしてアジアの同胞として協力しあうことが何にも増して重要』だと強く感じたしだいである.

4. 参考文献 (さらに詳しく知りたい方に)

【韓国の歴史】

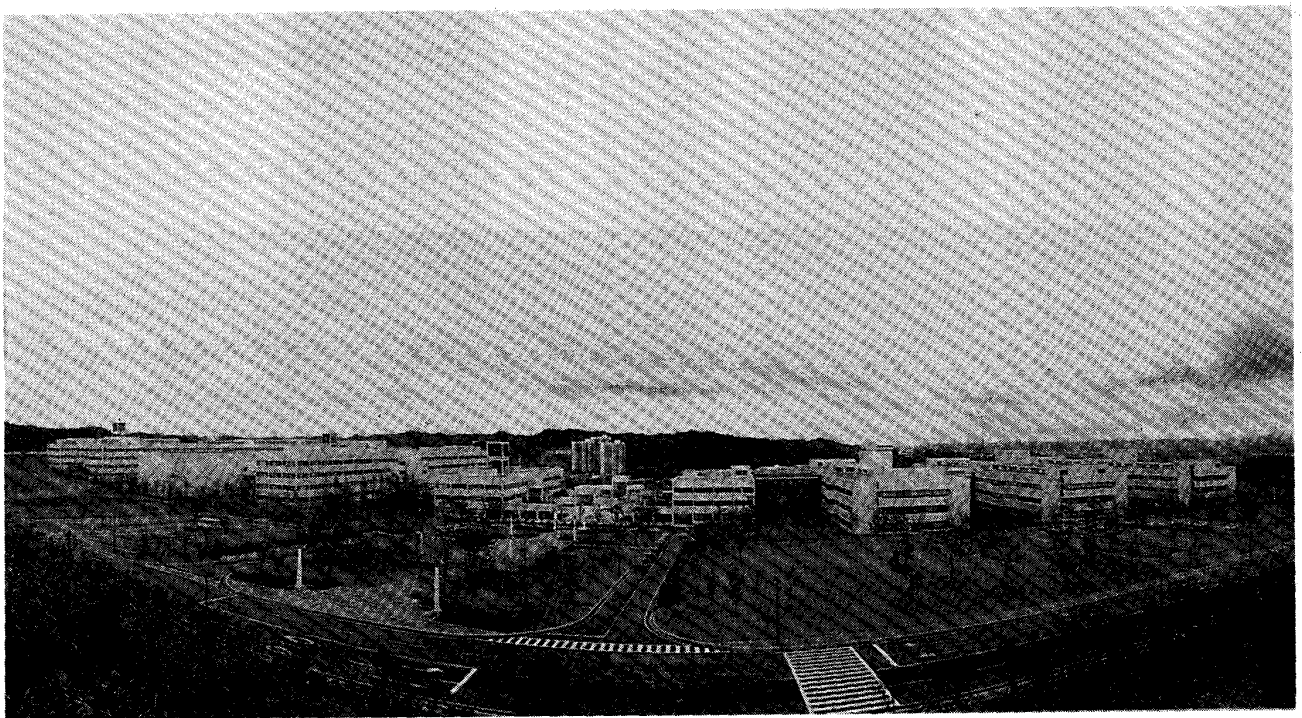
- 1) 金 達寿: 朝鮮(1958) 岩波新書 D61 [岩波書店]
- 2) 梶村秀樹: 朝鮮史(1977) 講談社現代新書 460 [講談社]
- 3) 麗 羅: 恨(ハン)の韓国史(1988) [徳間書店]
- 4) 金 両基: 物語韓国史(1989) 中公新書 925 [中央公論社]
- 5) 麗 羅: 人物韓国史-上・下(1989) [徳間書店]

【ハンゲルについて】

- 6) 渡辺吉鎔, 鈴木孝夫: 朝鮮語のすすめ(1981) 講談社現代新書 614 [講談社]
- 7) 渡辺吉鎔: はじめての朝鮮語(1983) 講談社現代新書 687 [講談社]
- 8) 金 両基: ハンゲルの世界(1984) 中公新書 742 [中央公論社]
- 9) 10 日間のハンゲル, 別冊宝島 42(1984)[JICC 出版局]
- 10) 茨木のり子: ハンゲルへの旅(1989) [朝日新聞社]

【韓国社会について】

- 11) 渡辺利夫: 韓国 ヴェンチャー・キャピタリズム



RIST と POSTECH の全景写真

-
- (1986) 講談社現代新書 831 [講談社]
- 12)黒田勝弘：韓国社会を見つめて(1987) [徳間書店]
- 13)黒田勝弘：ソウル発これが韓国だ(1987)[徳間書店]
- 14)朝鮮・韓国を知る本，別冊宝島 39(1984) [JICC 出版局]
- 【その他】
- 15)正木信之：韓国ショッピング・ガイド(1988) [徳間書店]
- 16)B 級グルメが見た韓国(1989) [文芸春秋社]
- 17)韓国再発見(1989)[朝日新聞社]
- 18)田中 明：「韓国の『民族』と『反日』」(1989) [朝日新聞社]
-